

第5段階：イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ撤退する

C. イエスは弟子訓練によって撤退を終える

デイリー・ジーザス・ニュース #135

2. 奇跡その26：イエスは奇跡的な漁で神殿税を支払う

マタイ17.24-27（対訳テキストはありません）

24 イエスと弟子たちがカペナウムに到着すると、ニドラクマの神殿税を徴収する人々がペテロのところに来て尋ねました。「あなたの先生は神殿税を納める習慣がないのですか。」

25 「はい、そうです」と彼は答えた。

ペテロが家に入ると、イエスが最初に口を開きました。「シモン、どう思うか？」とイエスは尋ねました。「地上の王たちは、だれから税金や貢物を受け取るのか。自分の息子からか、それとも他人からか。」

26 「ほかの人たちからです」とペテロは答えた。

「それでは息子たちは免除される」イエスは彼に言いました。

27 「しかし、迷惑をかけないように、湖に行って釣り糸を投げなさい。最初に釣れた魚を取って、口を開けば四ドラクマ硬貨が出てくるでしょう。それを取って彼らに渡しなさい...私の税金として、そしてあなたのために。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤いイタリック体で書かれています**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	カペナウム
タイムライン	9月（33月）
イエスの生涯の文脈	第5段階：イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ撤退する
	C. イエスは弟子訓練によって撤退を終える
タイトル	2. イエスは奇跡的な漁獲で神殿税を支払う

コメント：

第5段階：イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ撤退する

C. イエスは弟子訓練によって撤退を終える

マタイは、ガリラヤでの宣教を終えたイエスがカペナウムで二度目の弟子として教えられたことを記した唯一の福音書記者です。かつて徴税人だったマタイが、イエスが自身とペテロのために神殿税を支払ったこの出来事を記したのは当然のことです。この物語には、イエスの愛に関する数々の教訓が際立っています。

ここでペテロの衝動的な性格が表れています。イエスが毎年神殿税を納める習慣があったかどうか尋ねられたとき、ペテロはイエスに相談することなく、自分の行動を主に委ねてしまいました。興味深いのは、ペテロが戻ってきたとき、ペテロが口を開く前に、イエスが自らペテロに何が起こったのか尋ねたことです。イエスはペテロを叱責するのではなく、弟子の衝動的な行動にもかかわらず、彼と協力的に行動しました。

さらに、イエスはペテロのためにも税金を支払いました。ペテロがイエスに問題を引き起こしそうになった時でさえ、イエスはペテロと共に働き、彼に必要なものを与えることで、ペテロを愛しました。

ここでも、イエスが信仰によってどのように生きたかが分かります。イエスには税金を払うお金がありませんでした。イエスは漁師であるペテロを遣わし、彼の技術と専門知識を用いて魚を捕まえさせました。そして、イエスはペテロの労働の価値を何倍にも高め、口に硬貨がくっついて魚へと導きました。その硬貨の価値は、ペテロとイエスの税金を払うのにちょうど足りるほどでした。神は、ここで行われたように、私たちの日々の仕事において、導きと祝福を通して私たちを支えてくださいます。

この物語の最後の教訓は、おそらく最も重要なものでしょう。イエスは、神の子である自分には神殿税を払う道徳的義務はないことを指摘しました。イエスは自由でした。しかし、イエスの愛ゆえに、自分の自由が他の人々に与える影響について深く考えさせられました。イエスは、自分の自由を他の人々をつまづかせるために使うことは決してありませんでした。自分が神の子であり、それゆえに神殿税を免除されていることを理解していないユダヤ人の兄弟たちを怒らせたくなかったのです。

イエスは、義務ではないのに税金を払うことで、愛が他者を傷つける可能性がある場合、自らの行動と自由を制限することを示しました。愛は自己の利益ではなく、他者の利益に奉仕するのです。

マタイは、使徒たちが正反対の態度を示した場面（明日の朗読）を示す直前に、イエスの謙虚で愛に満ちたリーダーシップをこの素晴らしい描写で物語の中に織り込んでいます。マタイ18章に記されている、ガリラヤにおけるイエスの弟子としての教えの残りの部分は、「神の国における真の偉大さ」というテーマを扱っています。イエスは弟子たちに、偉大さは愛と謙虚さをもって他者に仕えることにあることを示されます。

その姿勢は、イエスがペテロとユダヤ人の同胞に、負う必要のない税金を払うことで、慈しみ深く仕えたことに見事に表れています。イエスは最終的に、十字架上で私たちのすべての罪の代価を支払うことで、その愛の本質を明らかにしました。それは、イエスが負う必要のない、そして支払う義務のないもう一つの負債でした。愛はそうさせるのです。

応用：

第5段階：イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ撤退する

C. イエスは弟子訓練によって撤退を終える

イエスは、御言葉と御業のすべてにおいて、父なる神と他の人々を愛しました。福音書に記されたこの模範は美しく、力強いものです。イエスは私たち一人ひとりに、ご自身がまず私たちを愛してくださったように、他の人々を愛することにおいて、イエスに従うよう呼びかけておられます。

他人を傷つけないために自らの自由を制限することをいとわない愛が、日々切実に必要とされています。

それ自体は間違っていないのに、いずれにせよ他人を傷つけるような言葉を発したり、行動したり、態度を表明したりすることは、常に慎まなければなりません。パウロはこう言っています。「もしあなたがたが食べるもの（「食べる」を「言う」または「する」に置き換えてください）のせいで兄弟を苦しめているなら、あなたはもはや愛をもって行動しているではありません。キリストが死なれた兄弟を、あなたがたの食べることによって滅ぼしてはいけません。」ローマ14章15節

他人を傷つけないために、今日、あなたはどのような点で言動を制限する必要がありますか？そのような覚悟はありますか？

イエスに、あなた自身を彼自身で満たして下さるようお願いし、その特定の方法であなたを通してイエスの愛を生きてください。